

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
生活技術論 Life technological argument		1年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(介護福祉士養成課程 選択必修)	
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
家事支援技術Ⅱ				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
阿部芳子・鈴木恵美	福祉棟・3F			授業中に指示します
授業の概要				
家庭を拠点に営む生活のあり方について、人間としての尊厳を維持するための必要な社会関係と生活技術を学ぶのが生活学であり、生活技術論である。このような視点から基本的な生活技術を習得し、高齢社会における自立の意味を理解し、生活の質を高めることをねらいとする。				
授業の目標				
介護は日常生活の側からの人権を踏まえた支援であり、さらにそれは実践によって高められ、深められなければならない。したがって、学習の前提には他人の痛みがわかる人間として、個人々々に対応できる生活援助を習得できるようにする。				
授業の方法				
講義形式中心。2年次の家事支援技術を円滑に進めるようにこの教科を熟知する。				
学習の成果(学習成果)				
生活の基本を理解し、介護のプロとして生活技術を支援できるよう、内容を理解する。介護の対象者は年齢・生活する地域などさまざまである。自らの生活の基本を確実のものとし、支援者としての考え方、知識、技術等を学び、尊厳の保持の観点から、どのような状況にあっても自立、自律を尊重し、潜在能力を見守ることを含め、生活技術支援を安全に実施することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	生活の理解、生活のとらえ方と生活を形成しているもの。生活支援の基本的な考え方			1～6 14 15 阿部
第2回目	生活設計・ライフステージとは、高齢者・障害者の家庭生活			
第3回目	生活のマネジメント、生活経営と構成要素			
第4回目	衣生活の役割と機能			
第5回目	被服の素材、皮膚衛生と衣料障害			
第6回目	高齢者の衣生活、衣服の選択と管理			

第7回目	・授業概要 ・日本の食生活の現状 ・栄養素の主な働き ・食品群について ・食事バランスガイド 7～13 鈴木		
第8回目	・5大栄養素の生理作用 ・消化、吸収		
第9回目	・調理操作論 ・食品の調理性①		
第10回目	・食品の調理性②		
第11回目	・高齢者の栄養管理 ・疾病と栄養		
第12回目	・衛生管理(食中毒)		
第13回目	・献立の立て方 ・食事バランスガイドを使った献立立案		
第14回目	自立に向けた生活支援、安眠を促す介護、QOL向上のための支援 試験		
第15回目	授業のまとめ		
成績評価の方法と基準			
	評価の領域	割合	評価の基準
	授業参加態度	30%	授業を集中して聞き、質問等に答え、積極的に授業参加していたか。
	レポート		
	調査報告書		
	小テスト		
	試験	70%	講義内容を理解し、的確に記述されていたか。
	発表内容(態度含む)		
	その他		
教科書と参考図書			
生活支援技術Ⅰ(中央法規) 介護フィールドで購入 (介護フィールド以外のホームヘルパー資格のみ受講者は個人購入)			
履修上の留意点・ルール			
2年次の生活支援技術に関連しているため、習得しておくとう理解しやすい。			